

「震災地」宮城県山元町の”ひまわり”【日回り草】

「ひまわり」の映画が公開されたのが、今から52年前の1970年のことです。イタリア、フランス、ソビエト、アメリカの合作映画でした。映画の主演がマルチェロ・マストロヤンニとソフィア・ローレンです。その物語の時代は第二次世界大戦最中、戦争によって引き裂かれた夫婦の行く末の果ての悲劇を描いています。ひまわりの映画ストーリーは戦争が終わっても帰ってこない夫を探しに、イタリアから夫が赴いている戦地のソビエトへ行きます。そこで案内されたのが、地平線まで続く“ひまわり畑”でした。多くの兵士がこの下に眠っていると映画の中で教えられます。今に思えば、そのひまわり畑のロケ地は何とウクライナにあったのです。今年2月、ソ連のウクライナ侵攻によって、半世紀前の映画が再び脚光を浴びています。私は再びその映画を観ました。流れる音楽のメロデーは何んとも哀愁を帯びた音色がスクリーンに漂う感動の映画は、若き日の郷愁にかられながら涙して鑑賞しました。ひまわりはウクライナの国花で、侵攻への抗議の象徴にもなっています。映画では、夫は生きていましたが、決してハッピーエンドとは言えない結末でした。戦争とひまわり畑という陰と陽とのコントラストが、何ともやるせない思いにさせられます。



このひまわりは、畑に入って摘んで持ち帰りが出れます。お盆なので、お墓に供えるのでしょうか？

さて、話は宮城県山元町に戻ります。当町は東日本大震災の津波で大きな被害を受けました。沿岸部（牛橋、花釜、笠野、新浜、中浜）5地区は災害危険区域となり誰一人として住むことが出来ない危険地帯となり今は広大な農地になってしまいましたそこに6年前から地力増進の為、ひまわりを植えています。新鮮な植物をそのまま田畑の肥料にするためです。その肥料に適した「サンマリノ」の品種のひまわりを、毎年異なる農地海岸部（牛橋、花釜、笠野、新浜、中浜）に植えています。今年は新浜地区です。東京ドームの1.5倍程の広さの農地（震災前はこの5地区は全て民家でした）その農地に200万本のひまわりが咲きほこっています。高見台から一望すると、宮城県内最大規模のひまわり畑であることが納得できます。ウクライナのひまわりの影響もあるのかも知れませんが、平和を願って訪れる人もたくさんいます。

実は、新浜地区震災前は、比較的広い屋敷の家並みが綺麗に建ち並び、近くには別荘地もありました。しかし、海に近いことが災いしてしまい一軒残らず家屋敷は流されました。犠牲者も多く、私の同級生は夜勤を終え寝ているところで夢枕のように10メートルの津波に呑まれ帰らぬ人となりました。この新浜地区は、震災後消滅した唯一の行政地区になりました。映画では、戦死者がひまわり畑の下で眠るという設定でしたが、新浜地区のひまわり畑あたりでも津波の犠牲になった人が大勢います。その意味では映画とはまた違った感じで、あの津波とひまわり畑のコントラストが浮かびます。今年のお盆にお墓参りをして気が付いたのが、多くのお墓にひまわりの花が飾ってあります。山元町のひまわりの花は自由に摘むことが出来るので、それをお盆にお墓に供えたのではないかと思います。お彼岸に彼岸花があるように、夏のお盆には“ひまわり”【日回り草】が亡き人を想う花になって行くのではないかとも思える花になるような気がしてなりません。ウクライナにはお盆はないでしょうが、“ひまわり”よ、亡き人を慰め平和を願う地力を願わしい思し召しを。

(寄稿・玉縄自町連会長＝渡辺寿三)



150万本のひまわりが植えてある宮城県山元町震災地農地跡地。ヒマワリ畑は、震災で甚大な被害を受けた沿岸部一帯を、ほ場整備により農地として復旧した土地であり、元々、宅地や道路など、畑ではない様々な土地が混在していたため、農作物を育てる「地力」を増強する必要がありました。そこで、地力増進のための景観にも優れた緑肥（肥料）として作付けしたのがヒマワリで、営農計画に沿って毎年作付けする畑を決定するため、場所（5地区）が変わっています。